

## 歴史的な建物を活かしつつ

## フレキシブルに使用できる学修スペース

Somerset House East Wing Learning Centre



6つのスペースはプロジェクタ・スクリーン・ホワイトボードとして使える壁があり、什器も可動性が高く、数名～20名程度までの様々な活動に対応

## 【ポイント】

## 歴史的建造物をリノベーションにより再生

## 多様な利用者とシチュエーションに対応できる施設整備

- 多様な活動に対応できるよう、生活環境を思わせるユニークな空間デザインの各室にはワイヤレスプロジェクタや可動式のシステム操作台を整備し、また全館で無線 LAN を整備。
- 大人から子供までがフォーマルにもインフォーマルにも利用できるよう、各室ごとに多様な形状の什器を配置し、ストレージも充実。
- バリアフリー整備を行い、館内の段差をなくし、入口にスロープを設置する等、車椅子利用にも対応。

## 次世代に歴史を伝える場所として残す

- 歴史的な建物には改修の際に様々な制約条件がつくが、「残すべきもの」を明確に意識した整備により、学修環境から自然に歴史を学べるメリットが生み出される。

## 自然光をとり入れた閉塞感の無い空間

- 従来の壁や、窓枠、ドア等をそのまま残し、自然光を活かした明るい空間になっている。



「考古学の部屋」と名付けられたかつて防空壕があった場所



地下 2 階だが、従来の窓等は残り、自然光が入るため閉塞感はない

## 整備による効果

### 利用者が新しい学修を創出

- 様々な選択肢から、利用者が目的に応じて自由に利用する中で、新しい学修スタイルや授業形態が生み出されることを期待。

### 学外利用によるスペースの有効活用

- 一般企業や、小さな子供等、多様な利用者に対応する設備のため、学外利用による利用率向上が見込まれる。

### 歴史・文化の保存に寄与

- 歴史的な建物を活用していくことで、管理とメンテナンスを行い、ロンドンの歴史・文化の保存に寄与。



Somerset House East Wing 入口

## 整備の背景・目的

- 今後 5 年間で約 3000 名の学生数の増員を計画しており、5 つあるキャンパスのうち最大の Strand campus についてはキャンパス周辺地域も含めた再整備を進めている。
- キャンパス近隣の歴史的な建物を相次いで取得しており、隣接する Somerset House East Wing についても、取得した 2009 年から改修を開始。2015 年 12 月に竣工した。



Somerset House 外観

## 更なる展開

### パイロット期間を設けて改善

- この学修スペースは 2015 年 12 月に完成したばかりであり、しばらくはパイロット期間として試用し利用実態を検証し、改善しつつ利用を広げていく。

### 教員の意識改革を進める

- 新しい学修スタイルに応じた学修スペースを整備していく上で、変化に抵抗を感じる教員に対する働きかけを行うことが重要である。教員の意識改革のために学外のアドバイザーの活用や、授業改善のオンラインプログラムを推進していく。